

夏の病氣と幼児の食物

醫學士 青 木 醇 一

梅雨期から七八月の炎暑の候にかけては小兒の病氣の一番多い季節であります。此の季節には、

兎角人々の身體の組織は弛緩し易く、従つて其の機能も鈍つて來ます。殊に小兒の消化機能は著しく衰へて來るので、夏になると僅かの食物の不攝生があつても、小兒は忽ち胃腸を害ふ事になります。それに夏季は一體に黴菌が繁殖し易いので色々の食物が直き腐敗いたします。朝煮たものほも晝には悪い臭を放つと云ふ様な譯ですから、餘程家庭で注意せぬと、遂、小兒に悪いものを食べさせる事になります。斯様な譯で、小兒の夏の病氣と云へば消化器系統の疾病が主であります。それ故小兒の夏の衛生も此の方面の注意が殊に大切であります。で、今日は特に幼稚園期の小兒に就

て、夏の病氣と小兒の食物に就てお話いたして皆さんの御注意を促し度いと思ふのであります。

○幼児に多き消化不良症

何と云つても夏季の幼児の病氣としては、一番多いのは消化不良症であります。恐らく夏の病の大半以上を占めて居りませう。此の病氣は主に食物の不注意が原因となりますから、家庭で注意がよく行き届きさへすれば、幼児をこんな病にかけないで済む筈ですが、それが仲々困難な事と見えまして年々歳々夏になると幼児が食べ過ぎて胃腸を害したと云ふ様な事で醫師の門を叩くものが増して來る様な状態であります。

幼児が此の病に罹つた場合、よく母親に就て其

の原因を質して見ると、大抵思ひ當る處があります。お祭があつて、食べ過ぎしたとか、日曜に何處へ行つて何を食べたのが悪るかつたらうとか或は又、食べた果物が未熟であつたとか、古かつたとか申します。それで、病氣の起りはどんな風であるかと云ふに、多くは食物の不注意のあつた翌日とか、又は其夜かに急に食べた物を吐きます、それから又腹痛を訴ふる事もあります。兎角して其内に、下痢を起して来るし多少の熱も出て來ます。同時に氣力がなるなり食欲が減つて來ます。斯うなると母親は急に心配になつて來るので、忙して、醫師を迎ふる事になります。之が夏になつて小兒に頻々とある消化不良症でありますが、此の位の容態なら夫れ程の事もなく其後の食物にさへ充分の注意を加へておれば數日の内には治癒いたします。併し之を捨てて少しも構はずに置くとか、又は幼兒の體質によつては初めから之よりも一層劇しく起つて來ます。その時には幼兒は食欲は全

くなくなり渴を非常に訴へます。そして嘔氣や嘔吐が一日に幾度となく起つて來ます。それから顔貌はぼんやりとして來て、少しも平素の様な生き／＼した處が無くなりますし、全身は非常に勞れて手足など置き處もないと云ふ様子をします。其内にウト／＼眠つて來ます、時折眼が覺めたかと思ふと又ウト／＼致します此時脈に觸れて見ると非常に速く且つ眠つておるのが普通です斯様な状態を消化不良性昏睡と名づけ小兒科醫は特に恐れております。之は消化不良症の内、最も重いものでこんな容態を示して、來たならば、餘程警戒をせねばなりません。一體に此病では嘔き氣の多い事、ウト／＼眠り込む事、顔貌に生氣なくどんよりして了ふ事が特徴でもあり、又最も恐るべき徴候なのでありますから、之等の容態が見えたら一刻も早く醫師の治療を乞ふ必要があります。それから特に家庭の注意を促して置き度い事は、斯様な場合醫師の來る迄は幼兒に一切食物も與へない

でおく事であります。もし患兒に食慾が無ければ

一晝夜でも二晝夜でも牛乳や重湯の一匙も與へぬと云ふ程の考へで居るがよろしい。唯渴を訴へたならば、少量づゝ其都度湯ざましなど與へて之を醫してやる位にいたします。其の間に患兒の疲れ果てた胃腸は充分に休養する事が出来るので、一日か二日絶食した後には大いに其の機能を恢復して來るのであります。こゝが大切な點で、此時に素人考では食物を與へぬから疲勞が増すのだと思ひ込んで、無理にも食べさせ様とし、又餘り食べさせないでは可愛想だと云ふて、醫師の注意に背き隠れて食物を與へたりする事がありますが、之が間もなく仇となつて稍々恢復しかけた病氣が更に急轉直下して、前よりも一層險惡な症狀を示して來る事になるのであります。四、五歳の幼兒が一日や二日絶食したとて決して餓死する心配はありませんから、醫師から食事を半日なり一日なり禁せられたならば必ず其の指定に従はねばなりま

せん。

○恐るべき疫痢と赤痢

消化不良に次で夏に注意すべき病は疫痢と赤痢とであります。疫痢は、主に幼稚園時代の小兒に多い病氣で、其症狀の劇烈な事と、経過が極めて迅く、そして殆んど救助の道がないと云ふので、非常に恐るべき疾病とされて居ります。病氣の初めは丁度前に述べた消化不良性昏睡に似て居りますがそれよりも一層急劇に初まり之迄別に變つた處もなかつた幼兒が、急に元氣はなくなり、食べたものを吐いたり、下痢したりします。母親が驚いて身體に手を觸れて見ると、もう火の様に熱くなつて居るので、體温を測つて見ると、四十度以上にもなつて居る事がよくあります。下痢は初めは食物の不消化物ですが、後には粘液や膿様のものを混じて來ます。大抵一晝夜に四、五回から十回位のものです初めは元氣が失せ食慾などなくなりウ

ツラ／＼しておりますが發病後半日か一日の内に
症狀は急に險惡になつて來て、精神は朦朧として
來るし、續いて全身の痙攣を起す様になりますこ
うなると顔は全く蒼ざめ、口の周りは紫色を呈し
眼は急に落ち込んで見るからに哀れな状態になつ
て來ます。それに病兒の苦悶の状など到底見るに
堪へぬ程烈しくなつて來て、刻一刻と危險が迫つ
て來る事が素人眼にもよく判る様になりますそれ
で極く早いのは發病後十二時間位で既に死亡致し
ます。遅さも二三日後には死亡すると云ふ様な譯
で其の經過の急劇な事誠に疾風迅雷耳を蔽ふ間も
ないとも形容したい程であります。それに一旦罹
つたら最後、先づ十人が十人まで助からぬものと
思はねばなりません。

斯様に恐ろしい病が、如何して起るか目下の處
其の原因も確乎とは判つて居りません。傳染病の
内に數へてはおるものゝ、確かに傳染病だと云ふ
程の證據がある譯でもありません。唯多くの經驗

によると食物の不攝生のあつた後に起るのが多い
様であります。それから又寢冷えをして腹部を冷
やしたと云ふ様な事も此の病に多少の關係がある
様に思はれます。殊に不思議な事は、此の病氣は
殆んど幼兒に限られて居る事でありませぬ。乳兒や
其外、年の進んだ小兒には餘り見受けられませぬ
此の病は、大抵急に初まりますから、醫者を待
つ間家庭で何とか應急の處置をせねばならぬ場合
が多いのであります。應急の手當としては、患兒
を靜かに寢かして、腹部には懷爐なり莖蓐なりで
溫番法をし、足が冷たければ湯婆ゆたんぼでも入れて、溫
むるがよろしい。又熱が高ければ頭は氷嚢や氷枕
を用ゐて冷やさねばなりません。それから食物は
消化不良症の時と同様一時與へずにおく事が肝要
です。渴が強ければ折々冷水でも與へておく様に
いたします。其の他の事は醫師が來てから其の指
定に従つてするが最も安全であります。

疫痢の外、夏季に流行する病としては赤痢が多

いのでありますが、之は幼児に特に多いと云ふ譯では無く、大人でも小兒でも一樣に罹る傳染病であります。症状は、こゝに申すまでもありますまいが、便の回数の非常に多い事例へば一晝夜に二十回三十回時には更に多くなります。それから便に粘液血液膿等を多く混ざる事、それから又裏急後垂と申しまして、頻りに便意を催して來るが、さて便器にかゝつて見ると餘り便通がない、其の内又間もなく便通を催して來ると云ふ様な調子で兎角患者に苦痛もあり不快の感の多いものですが之等が赤痢の特徴であります。其外腹痛や發熱のある事、患者の衰弱の加はる事等は云ふ迄もありません。

幼児が赤痢に罹るのは、主として飲料水野菜果物類の不注意から起ります。それ故夏季には、殊に其流行のある際は、一層嚴重に之等の食物に注意を加へねばなりません。

○幼児と夏の食物の衛生

以上述べた處は何れも幼児に多い夏の病であります。其の原因は皆食物に關係致して居ります。それ故重複の嫌はありますが尙一言食物の注意を附け加へて置き度いのであります。一體に幼稚園時代の小兒の食事は朝晝夜の三度の主食事の外に午後一度「おやつ」が必要です。之は決して、幼兒の退屈凌ぎや慰みの爲めではなくて、生理上の要求からであります。幼兒は大人と異つて、今盛んに身體が成長しつゝある時代ですから、既に發育の進んだ大人と比べたなら、成長するに必要な丈の餘計の食物が要る譯であります。そこで食事の回数も四回か五回なければならぬのであります。で幼稚園前の幼兒には、午後の外には午前にも一度簡單な「おやつ」を與ふるのが普通です。幼稚園以後の幼兒には「おやつ」は午後一度で充分です。幼兒に菓子や果物を與ふるのは、此の「おやつ」

の折が最もよろしい、そして之等の定つた食事で外には幼児のせがむのに任せて幾度となる菓子や果物を興ふる事は避けねばなりません。

夏季になると前にも述べた様に、幼児の消化機能も著しく鈍つて來ますから、少し食事が不規則になつたり、多過ぎたりすると兎角障碍を起し易いものであります。それに夏季には幼稚園に通つてゐる小兒は、夏の休みで一日中家庭におる事になります。其の上でこの家庭でも夏は暑さが強いので戸外にも口中は餘り出さぬ事になりますから、小兒は自然家庭に居て退屈を感ずる事にもなり、従つて色々と食べ物を母親にせがむ事になります。之迄、幼稚園にいつて居て、午前には間食など少しもせずよく運動して居た小兒が、急に運動も少くなるし、無暗に間食が増た事になつて來ます。こゝが家庭が大に注意すべき點で、幼稚園に行つてた間は至極丈夫であつたが夏の休みになつてから度々消化不良症を起して困ると云ふ母親の訴を

聞く事になる譯であります。それ故、夏季に向つたなら、食事も以前より一層規則的にして間食もほゞ一定した時間以外にはやらぬ方針にせねばなりません。

尙又夏季は暑さの爲め渴を覺ゆる事が強くなるので、水や氷を飲み過ぎる事なども随分ある事ですから、此邊も餘程注意が要ります。それから又梅雨期から夏にかけては小兒の好む果物の多い事が又小兒の病氣の原因になります。枇杷、櫻桃、桃、西瓜、梨など何れも幼兒には不消化な者で且つ早く腐敗し易い者でありますから、果物を興へる場合はよく吟味してやらねばなりません。又家庭では氣を付ける積りでも、小兒が外に出て両親の知らぬ間に不攝生なものを食べる事などもよくある事ですから、之等は平素からの躾け方をよくしそんな心配のない様にしておかねばなりません。食物に注意をすると同時に、夏の暑い間でも戸外に出して充分運動させる事が大切です。夏は暑

いからと云ふので二月も三月もの長い間幼児を家の内にのみ閉ぢ込めておくと、自然運動も不足になるし、従つて食欲は減じ身體の機能は益々鈍り遂には健康を害する事になります。夫れ故、朝夕の涼しい間は勿論日中でも木蔭などの涼しい處を擇んで、自由に戸外で遊ばせる様に奨励せねばなりません。

それから、又近來は避暑が大分流行しますが、避暑地などでは、殊に食物の注意は大切です。避暑に行つてから幼児が消化不良になつたとか避暑先きで赤痢や疫痢に罹つたと云ふ話は私共が屢ば耳にする處であります。之は避暑に行つてから却つて幼児の生活が不規則になり食物などに對する注意も之迄家庭に居た時の様に周到でなかつたりするのが、原因になります。又衛生上の設備の不十分な避暑地では夏季には殊に赤痢其他の傳染病も流行しますから、飲料水や牛乳野菜類果類等に對し、余程注意せぬと遂之等の傳染病に罹る事が

あるのであります。それ故、飲料水などは必ず煮沸してから與へる様にし、其外の食事も之迄家庭に居た時と餘り變らぬ様にする事が大切です。

○文部省講習會

文部省に於ては來る八月一日より同九日に至る九日間、東京女子高等師範學校に於て、幼稚園長及保姆のため左記の通り講習會を開催する由。(六月二十五日の官報参照)

一、北海道廳及各府縣講習員の定員は二人とす。

一、講習員は地方廳官之を選定す。

一、地方長官は講習員を選定したる時は、本人の氏名、職業、講習を受くべき學科目及會場を記載したる選定書を七月十日迄に文部省普通學務局に差出し講習員を開會前日迄に講習會場に出頭せしむべし。

一、前記の資格を有せざるものは講習員として選定する事を得ず。

一、地方長官は定員以外に於て豫備員を選定する事を得。

一、文部省に於て前項豫備員を許可したるときは其旨地方長官に通知す。

一、講習を終りたるときは講習員の出席を査案して證明書を授與す。

一、講習に要する實習費は當該學科目講習員の負擔とす。